

タイ王国 ガンチャナブリー
農業普及センター建設計画
基本設計調査概要報告書

1982年11月

国際協力事業団

122
807
GRB

無償設計
83-45

JICA LIBRARY



1050330[8]

タイ王国 カンチャナブリー
農業普及センター建設計画
基本設計調査概要報告書

1982年11月

国際協力事業団

国際協力事業団	
受入 日 584.8.24	122
登録No. 13739	80.7 GRB

目 次

序 文

建設予定地地図

要 約

第 1 章	要請内容	1
第 2 章	基本設計調査の内容	4
2-1	調査の目的と概要	4
第 3 章	建設用地	5
3-1	建設用地の位置	5
3-2	近隣の土地利用と環境	5
3-3	建設用地の現況	5
3-4	建設用地の地盤	5
3-5	関連インフラストラクチャー	5
第 4 章	基本設計の概要	7
4-1	基本構想	7
4-2	配置計画	7
4-3	施設計画	7
4-3-1	建築計画	7
4-3-2	構造計画	8
4-3-3	設備計画	8
4-4	工事範囲	8
4-5	建設費概要	8
第 5 章	本計画の効果	10
第 6 章	調査経緯	10
6-1	建設予定地決定	10
資料 1	1. 調査団の編成, 日程	11
	2. タイ国関係者	13
	3. ミニッツ	14
	4. カンチャナブリー県の概要	18

序 文

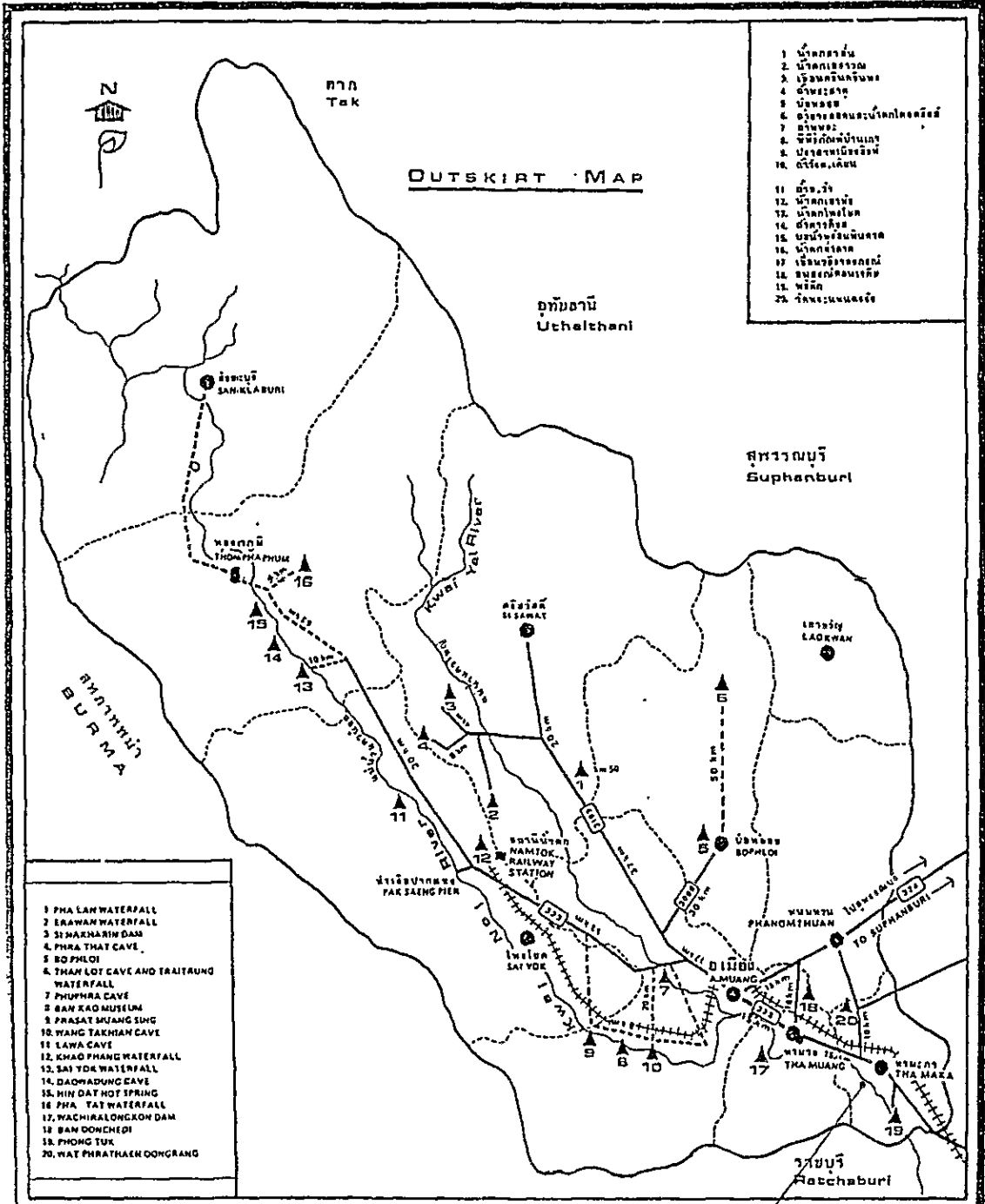
日本国政府は、タイ王国の要請に基づき、同国のカンチャナブリー農業普及センター建設計画に協力するため、基本設計調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施した。

本計画は、カンチャナブリー県の地域農民を対象に、農業に関する新知識、新技術の普及活動の施設建設を行なうことである。当事業団は、昭和57年11月14日より12日間、無償資金協力部基本設計課四釜嘉総を団長とする調査団を派遣し、本カンチャナブリー農業普及センター建設計画の基本設計に必要な調査とタイ国関係者との協議を行ない、又帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなった。本報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、同国の農業振興に多大の成果をもたらし、ひいては、両国の友好、親善に資すれば幸いである。最後に本件調査にご協力いただいたタイ王国政府関係者および日本側関係各省の各位に深甚なる謝意を表する次第である。

昭和57年12月

国際協力事業団

総裁 有田圭輔



1. น้ำตกถ้ำบัน
2. เขื่อนเอราวัณ
3. เขื่อนศรีนครินทร์
4. ถ้ำเขาเหล็ก
5. บึงพลาญชัย
6. อุทยานแห่งชาติเขื่อนไทรทอง
7. ภูเขาไฟ
8. พิพิธภัณฑ์เมือง
9. โบราณสถานเมือง
10. วัดพระแก้ว
11. วัดพระแก้ว
12. วัดพระแก้ว
13. วัดพระแก้ว
14. วัดพระแก้ว
15. วัดพระแก้ว
16. วัดพระแก้ว
17. วัดพระแก้ว
18. วัดพระแก้ว
19. วัดพระแก้ว
20. วัดพระแก้ว

- 1 PHA LAN WATERFALL
- 2 ERAWAN WATERFALL
- 3 SIRAKHARIN DAM
- 4 PHRA THAI CAVE
- 5 BO PHLOI
- 6 THAI LOT CAVE AND TRAIKUNG WATERFALL
- 7 PHUPHRA CAVE
- 8 BAN KAO MUSEUM
- 9 PRASAT MUANG SING
- 10 WANG TAKHAM CAVE
- 11 LAWA CAVE
- 12 KHAO PHANG WATERFALL
- 13 SAI YOK WATERFALL
- 14 DAOHADUNG CAVE
- 15 HIN DAT HOT SPRING
- 16 PHA TAT WATERFALL
- 17 WACHIRALONGKON DAM
- 18 BAN DONCHEDI
- 19 PHONG TUK
- 20 WAT PHRATHAKHONGRANG

プロジェクト サイト

要 約

タイ王国は、カンチャナブリー県メクロン地域において、基幹用排水路及び末端かんがい施設建設等の農村開発を行ない、農地の高度利用、生産拡大を計っている。しかしながらこの目的のためには、農民に対し、新しい農業技術の移転が必要と成るが、当該地域において、農業普及活動のための適切な施設がなく支障をきたしている。

かかる状況下において、タイ国は農業普及センター建設計画を策定し、日本政府に要請してきたものである。日本政府は、国際協力事業団を通じ、基本設計調査団を昭和57年11月14日より12日間、同国へ派遣し、その目的は、同国で用意された本計画の平面計画の妥当性の見直しと、その機能性について建築原論的見地からの検討を加えることとした。建設予定地は、カンチャナブリー県南部、首都バンコックの西北西約110 kmに位置する田園地帯で、敷地は、約35,200 m²用意されている。農業普及センターの構成は、講堂棟、事務所、教室棟及び食堂棟の3棟となり、事務費の日本負担分は、155,000,000円となる。

本計画の推持管理費用は、農業共同組合省農業普及局が予算化し、要員計画もカンチャナブリーの農業普及員があたるため支障はない。

本センターの建設後は、農業新技術の導入が、農業普及員を通じ、農民を一同にかいして講義、訓練することができ、その効果は大きい。

第 1 章 要請内容

1. 要請の背景

メクロン盆地は、クワイ・ヤイ川及びクワイ・ノイ川が合流してメクロン川となる地域で、現在この上流に複数の多目的ダムが建設されている。王室かんがい局、(RID)は、これらダムからの豊富な水をかんがい用水として300万ライに供給することを計画しており、カンチャナブリーから12km下流にワチュラロンコン分水ダムを建設し、メクロン両岸に基幹用排水路を配置し、更に末端かんがい施設及び農道の建設を伴う農村開発を開始している。

また、RIDは日本からの技術協力により農村開発のパイロット地区を建設し、当該地区内に試験農場を設置し、新農業技術の開発、展示を行っている。

このような農業基盤整備が行われる中で、これに対応して農業者の所得の増大、農地の高度利用、生産拡大を図ることが、喫緊の課題であり、このためには新しい農業技術を速やかに農家に移転することが重要である。

しかしながら、このメクロン地区には農業者への技術移転のための適切な施設がないので、農業者に新しい農業生産技術を移転、普及し、これを実地に応用させるための農業者訓練センターの建設が是非とも必要である。

2. プロジェクトの目的

このプロジェクトは、近代化された農村開発地区において、かんがい用水の効率的な利用を行う農業技術により農家を訓練することにより、単収の増加、所得の増大を通じて農家の生活水準の向上を図ることを目的とする。

3. 研修科目

農業者訓練センターにおいては、大メクロン地区の農民に新農業技術を普及するために、次のような研修を行う。

- (1) 水稲二期作、作付体系及び複合経営、かんがい用水管理、植物保護、土壌施肥を改善すること。
- (2) 4Hクラブ、婦人のクラブ、農民のグループ、組合を振興し、強化すること。
- (3) 畜産の改善
- (4) 農産物処理、食事の栄養改善
- (5) 農業機械化
- (6) 販売 (Marketing)

4. 研修カリキュラム等

(1) 研修コース、期間

22 の研修コース、講習会を設置し、研修期間は各コースとも7日以内。

(2) 研修人員

各コース100人前後を対象に研修することとし、年間延べ3,500人程度を研修対象とする。

(3) 研修対象者

研修コース毎に、4Hクラブのメンバー、農業者、農家の婦人等を対象とする。

5. 実施機関、運営組織

農業普及局及びその地方組織であるカンチャナブリ地方農業普及事務所において管理運営する。

6. 運営に係るタイ側の予算的措置

年間2,690千バーツを予定。

7. プロジェクトサイト及びその整備状況

サイトは、カンチャナブリ県タ・ムアン郡バン・ノン・バン・トルでメクロンプロジェクト右岸の郡の土地である。サイトの南に池がある等未整備であるが、すぐに整備を開始する由。

8. インフラ（水、電気）の整備状況

電気は至近地点まで敷設されており引込み可能とのことであるが、水は井戸を掘削し、これによる。

9. 要請内容

(1) 建物

事務所、食堂、療、ワークショップ、教室から成る農業者訓練施設

(2) 水供給システム（井戸、タンク等）

(3) 配電設備

(4) 事務用具、研修用機材

10 図面、所要経費見積り額

所要経費見積り額については、別途送付する要請書案において、10,012千パーツ（約110百万円）となっているも、図面作成に伴う細部調整により1億円以内とする予定である。

第 2 章 基本設計調査の内容

2-1 調査の目的と概要

タイ国政府、農業者、農業普及局の要請に基づき、カンチャナブリー県南部のメクロン地区クワイヤイ川とクワイノイ川の合流点より約 40 軒南下りのタームアン郡バン・ノン・パントルの敷地にファーマーズ、トレーニングセンターの施設建設にかゝる基本設計調査を実施したものである。

本調査は、建設計画、建設用地の諸条件、建設工事費概算等、基本設計に必要な諸調査及び情報の収集を行い。同時に、農業普及局側で用意された、略設計の平面計画の妥当性を見直しと、その機能性について建築原論的見地からの検討を加えることを目的として実施された。

第 3 章 建設用地

3-1 建設用地の位置

建設用地は、バンコック首都中心部より西北西約110軒、カンチャナブリー県の南部のラチャブリー県寄りに位置する田園地帯の一部である。

ヴァチュラロンコンダムへ約14軒、タア、マアカアへ8軒の位置を占めている。

(distruct)
Ban Nong Phang Thru Amphur Tha Muang
Changwat Kanchanaburi
(hrauince)

3-2 近隣の土地利用と環境

本敷地の西側隣地は開発農村が占め南側にはアプローチのメイン道路を隔て、寺院、並びに小学校が存在する。本センターの施設が機能を発揮した時点では、隣接の農村とその農民と深くかゝり合い、融合し有意義に展開することが期待される。

3-3 建設用地の現況

建設用地面積約22ライ(88ガン)35,200平米を有する、やゝ長北に長い、ほゞ短形の形状をなしている。

用地の北側は土地掘削による凹部分の水溜り部分が多面積を占めている為、

本センター施設建設予定位置はメインアプローチ道路に接した南側の比較的水面々積の少ない部分を有効に利用することを予定して計画する。南側敷地部分の池は埋戻しが必要又一部低い部分には盛土が必要である。なお、本センター建設に障害となる工作物、地下埋設物等は特に見当たらない。

3-4 建設用地の地盤

近隣に鉄筋コンクリート構造の建築物が見当たらない故、ボーリングの参考データ等は入手不能であった。従つて敷地の一部を試削し、肉眼判定の結果、杭基礎工事は不要と判別した。但し、水面に建物がかゝる部分の基礎については、杭長さ3米程度のコンクリート基礎補強等を考慮する必要がある。

3-5 関連インフラストラクチャー

3-5-1 電力

敷地の西側約70米隔てた道路沿いに架空送電線があり、敷地への電力供給は可能である。

3-5-2 給水

敷地周辺に上水道施設がない為、本敷地に於ては、本センターの機能を有効に發揮する為に深井戸を設ける必要がある。又、天水の収積にも考慮する必要がある。

3-5-3 排水

敷地周辺に下水道本管は無い、従って建物よりの排水のうち雨水及び雑排水は直接に浸透する様計画する。汚水については簡易浄化槽を設置して処理する。

3-5-4 ガス

本敷地周辺にはセントラル方式によるガス供給施設は無い、従ってプロパン、ガス、ボンベ、供給方式となる。

第 4 章 基本設計の概要

4-1 基本構想

協力の対象となった“農業普及訓練センター”は農業省、農業普及局に属する農業研究及び訓練機関として位置づけられ、地域農民を対象とし、農業にかんする新知識、新技術の普及の為の教育を行い。又、カンチャプリー県農業普及局に所属する27名の農業普及員の再教員及び新技術習得の場として有効に機能を発揮すると共に、4Hクラブ活動の場として有意義であり、その充実と発展の為に計画されたものである。

4-2 配置計画

講義講堂棟、事務所教室棟、食堂棟、駐車場を含めた全体計画から、敷地の南側、前面メインアプローチ道路に面して計画する。この位置は、敷地の中で水面面積が比較的少く、又、道路からの見通しが良く、入りやすく、又親しみの持てる位置である。

4-3 施設計画

4-3-1 建築計画

本センターの機能を大規模人員（300人以上）の講習と小規模人員（20人程度）の講習とに大別し、各々の機能より要求される広さ及び位置に従い、鉄筋コンクリート構造、3棟として計画する。延べ床面積は、与条件と計画予算を勘案し、延面積1000平米とし、計画する。

各棟の構成は次の通りである。

講義講堂

ステージ

便所

事務所教室棟

事務室

教室

ワークショップ

便所

食堂棟

食堂

厨房

倉庫

4-3-2 構造計画

構造は基礎、柱、床版を鉄筋コンクリート構造とし、小屋梁組は鉄骨造り屋根ストレート葺きとする。構造計画はタイ国、構造計算規準に準じて行う。

4-3-3 設備計画

一般的 電気、給排水設備の他に外部には一部誘蛾灯を設置する。冷房設備は設置しない、電動天井換気扇を各棟天井に設置する。

4-4 工事範囲

本センター建設に当って、タイ国側で準備又は施工される範囲は次の通りである。

1. 本敷地迄の電力引込工事
2. 本敷地迄の公道よりの道路の建設
3. 本敷地の凹部分の埋戻し、盛土及び整地工事
4. 本敷地内の造園植樹及び駐車場工事
5. 仮設工事用の敷地内用地の無償貸与。

本センター建設に当って、日本国側で準備又は施工される範囲は次の通りである。

1. 建物躯体及び仕上を含む建築工事
2. 給排水衛生設備工事
3. 電気設備工事
4. 井戸掘り工事
5. 外構工事の一部

4-5 建設費概要

バンコック首都に於ける、建設資材価格は比のところほゞ横ばい状況であるが、毎年、新年を迎えた後建築費用は政府の公示等にもとづき、15%程度上昇を示すのが歴史的傾向である。比の様な状況と下記の条件により工事概算豫算書を作製した。

1. 概算算出時期 1982年11月
2. 外国為替交換比率 1 US\$ = ¥276^μ = B23
1 BAHT = ¥EN12,00
3. 本工事は交換公文締結後それにもとづいて工事を行なうものとする。

A、	建設工事	¥	140,000,000	＼
B、	コンサルタント料	¥	15,000,000	＼
	総計	¥	155,000,000	

建設工事費の工事別内訳は次の通りである。

A 建設工事

(A)	建設工事費	¥	85,000,000	＼
(B)	設備工事費	¥	22,000,000	＼
(C)	外構工事費	¥	33,000,000	＼
	小計	¥	140,000,000	＼

第 5 章 本計画の効果

本調査の結果、本計画に対する無償資金協力の効果は充分期待できるものと判断されるその主な理由は次の通りである

- 1) 農業省農業普及局ではカンチャナブリー県に農業普及員を 27 名派遣しているが、多くの農民を集合させる施設がないため、4H活動を含め、その機能を発揮するのに支障を来している。この意味からも本施設の完成に農業省およびタイ国政府は大きな期待を寄せている。
- 2) 建設完了後の維持管理費についてはその低減に十分な検討を加えた設計としてまとめている故、概ね問題はないが、之に対するタイ側の具体的な協力と積極的な努力による運営の進め方が本プロジェクトの成功を左右することになる。
- 3) 本施設が機能を発揮し、有効に運営されればタイ国農民のみならず、広く東南アジア諸国の農業普及に又。それらの国々の 4Hクラブの発展にその影響力は広く且つ長期的な展望が期待出来る。ひいてはわが国と東南アジア諸国との交友に寄与することが期待出来ると確信する。

調査経緯

建設予定地決定

農業普及局は、本計画地の選定に対し、下記の 2 つの条件を満たすことが、必須であると考えカンチャナブリー県に 3 つのサイトを調査団に提示した。

- 1) 農民を広く集める必要上、交通の便の良いこと。
- 2) タイ側工事費負担が少なくなるよう、周辺インフラストラクチャーが整備されていること。

調査団が建設予定地を調査した結果は下記の通りである。

- 1) メクロン地区 (サイト決定地)
カンチャナブリー市街より 15 km 程離れており、周辺は田園地帯で交通の便は非常に悪い。又、建設予定地の 80 % は、池で水没している。
- 2) カンチャナブリー県庁前、
国道 323 号より 50 程離れた平坦地で 20 ライ程の敷地。交通の便は、非常に良く、水道、電気も整備されている。
- 3) THONPHAPHUM 地区
カンチャナブリー県庁より 100 km 程北方、100 ライ程の敷地、土地は広いが

原生林で交通の便は、非常に悪い。週辺インフラストラクチャーも全く未整備。

以上の調査結果より、カンチャナブリー県庁前の敷地が最適であるとの調査団の判断に対し、農業普及局も同意し、農業組合省上層部の了解を求めるため局長は奮闘したが、上層部は、納得せず、メクロン地区に決定された。サイト決定がタイ側の政治的手段によって成された事は、本プロジェクトのより高い効果を計ることは期待できず残念である。農業普及局の今後の機能的センター運営に期待したい。

資料1 調査団の編成と日程

1) 団員の構成

四 釜 嘉 総	団 長	国 際 協 力 事 業 団
		無 償 資 金 協 力 部
		基 本 設 計 課
松 田 清 一		建 築 設 計、(株)マツダロンサルタンツ

2) 調査団の日程 (1982. 11.14~11.25)

日付	調 査 打 合 せ 内 容	
14日 (日)	11.00 成田発 CX501便 香港経由	15.50 香港発 CX751便 17.00 バンコック着
15日 (月)	09.00 大使館及JICA 表敬訪問 調査日程打合せ	14.00 農業省表敬訪問
16日 (火)	09.00 農業普及局表敬訪問 ・調査計画打合せ	14.00 建設資材市場調査
17日 (水)	07.00 カンチャナブリー県現場 調査実施	同 左 18.00 バンコック着
18日 (木)	10.30 農業普及局にて調査 結果打合せ	14.00 実質討議の結果 敷地変更と決定

19日 (金)	07.00	カンチャナブリー県新敷地 2ヶ所現場調査実施	同 左 18.00	バンコック着
20日 (土)	09.00	新敷地にもとづき 計画案立案	14.00	同 左
21日 (日)	09.00	計画案作製	14.00	ミニッツ 原稿作製
22日 (月)	09.00	農業普及局訪問ミニッツ 原稿提出打合せの結果 敷地再変更の指示を受く	13.00	計画再変更案作製 概算豫算算出
23日 (火)	11.00	ミニッツに関し 実質討議実施	16.00	ミニッツ署名
24日 (水)	10.00	大使館. 及 JICA 調査報告並び帰国挨拶	14.00	市場調査
25日 (木)	09.00	市場調査実施	13.05 20.35	バンコク空港発 JL 462 便 成田着帰国

資料 2 タイ側関係者

- MR. PISIT SARIPHAIIN
DIRECTOR-GENERAL
DEPARTMENT OF AGRICULTURAL EXTENTION
- MR. NARONG MINANANDANA
DEPUTY DIRECTOR GENERAL
DEPARTMENT OF AGRICULTURAU EXTENTION
- MR. CHOTE SUVIPAKIT
FOREIGN AGRICOURTURAL RELATIONS DIVISIONMOA
- MRS. PONGPIT DULYAPACH
ACTING DIRECTOR OF AGRICUTURAL
ADMINISTRHTION DIVISION
DEPARTMENT OF AGRICULTURAL EXTNTION
- MR. SUTHI CHAISO
DEPARTMENT OF AGRICULTURAL EXTENTION

SUBJECT MATTER SPECIAUST OF SUB-DIVISION + 4H
- MISS PAYAO RATANAVIBULAYA
CHIEF OF TRAINING OFFICE
- MR. KAMPHOL BHANKINGTONGKAM
CHIEF OF FARMER SUB-DIVISION
- MRS. MATHANA BOONNOP
ACTING DIRECTOR OF PLANNING SPECIAL
PROJECT DIVISION
- MR. UDOM DECHMANI
DIRECTOR OF PLANT PROTECTION SERVICE
DIVISION
- MR. PRAVIT TOMYAVIT
CHIEF OF RURAL YOUTH SUB-DIVISION
COUNTER PART

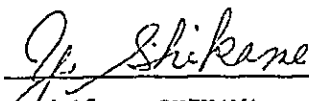
MINUTES OF DISCUSSIONS FOR BASIC DESIGN
STUDY ON THE MAE KLONG FARMER'S TRAINING
CENTER CONSTRUCTION PROJECT IN THE
KINGDOM OF THAILAND

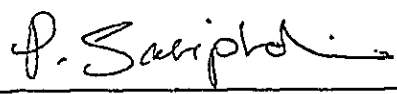
In response to a request by the Government of the Kingdom of Thailand for grant aid assistance for the Mae Klong Farmer's Training Center Construction Project (the project), the Government of Japan has sent through the Japan International Cooperation Agency (JICA), a survey team to carry out a basic design study on the project from November 15th to November 25th in 1982.

The team has carried out a field survey, held a series of discussions and exchanged views with the officials concerned of the Government of the Kingdom of Thailand (the authorities concerned) about the project.

As the result of the study and discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments to examine the results of the survey attached herewith towards the realization of the Project.

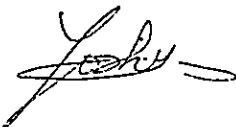
November 23, 1982


Yoshifusa SHIKAMA
Team Leader
The Japanese Survey Team


Mr. Pisit Sariphalin
Director-General
Department of Agricultural
Extension

MINUTES

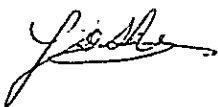
1. The proposed site of the Project will be Mae Klong (hereinafter referred to as "the Project Site").
2. The object of the Project is to provide necessary buildings for the Farmer's Training Center (hereinafter referred to as "the Center").
3. The Japanese Survey Team will convey to the Government of Japan the desire of the Government of the Kingdom of Thailand that the former takes necessary measures to cooperate in implementing the Project and provides the buildings and other items listed in Annex I within the scope of Japanese economic cooperation in Grant form.
4. The Government of the Kingdom of Thailand will take necessary measures, in the event that the grant assistance by the Government of Japan is extended to the Project.-
 - a) to provide data and information necessary for the design and the construction of the Center.
 - b) to secure lands necessary for the construction of the Center.
 - c) to clear and level the Project Site before the start of the construction.
 - d) to provide the other items listed in Annex II.
 - e) to ensure prompt unloading and customs clearance in the Kingdom of Thailand of imported materials and equipment for the construction, and to facilitate their internal transport.
 - f) to exempt the Japanese nationals concerned from customs duties, internal taxes and other fiscal levies imposed in the Kingdom of Thailand for the supply of goods and services for the construction.
 - g) to provide and accord necessary permission, licenses and other authorization deemed advisable for carrying out the Project.



ANNEX I

Items requested by the Government of the Kingdom of Thailand as
the priority order

- 1) Buildings for;
 - 1) Conference Hall
 - 2) Workshop, classroom and Administration office
 - 3) Cafeteria
- 2) Water supply for;
 - a) Deep well and water storage tank



P. Sasipha

ANNEX II

Items the cost of which will be borne by the Government of the Kingdom of Thailand

- 1) Electrical power main line to the Project Site.
- 2) Exterior facilities like access roads, fencing, parking and landscaping.
- 3) Provision of space necessary for such constructions as temporary offices, working area, stock yards, and others.
- 4) No. 1 shall be completed prior to the start of construction works.



カンチャナブリー県の概要

県の面積：	12,178,750	ライ
	4,871,500	ヘクタール
県の行政区分：	10区82村547組に分かれており、その内訳は下記の通り	
区(アンプウ)	16	村(タンボルニ)
"	15	"
"	13	"
"	8	"
"	4	"
"	7	"
"	5	"
"	3	"
"	5	"
"	6	"
計 10 区	82	村
人口：	総人口	544,653 人
	男性	281,506 人
	女性	263,147 人
世帯数：	88,053 世帯	
	その内、野業関係世帯数は約80%の74,420世帯である。尚一世帯の平均家族数は6.18人である	
県面積の内訳：	田んぼ	419,821 ライ
	二毛作田んぼ	16,659 "
	その他畑	1,222,701 "
	野菜畑	70,928 "
	果実畑	66,712 "
寺院数：	お寺273ヶ所	準お寺41ヶ所
学校：	教会	3ヶ所
	国立校(中学校、高等学校)	21校
	私立校(中学校、高等学校)	19校
	専門学校	4校
	短大	1校
	小学校	434校
工場：	精米所	126ヶ所
	たびおか工場	51ヶ所
	コーヒー工場	1ヶ所
	豆腐工場	1ヶ所
	砂糖きび工場	11ヶ所
農事試験場		11ヶ所

以上

Department of Agricultural Extension's Human Development and Training Programs
at the Proposed Training Center in Kanchaburi Province During One-Round Year

๓๓

Y-K = 4-H MEMBER

Project	Duration per session (day)	Number of session per year	Number of partici- pants	Target	Royal Thai Government Regular Budget (฿)
1. National Y-K Congress (4H)	7	1	387	4-H member (313) volunteer (74)	191,860
2. Y-K Occupational Development Training (Farm Mechaniza- tion:Using machinery)	6	6	60	4-H member	73,500
3. Western Regional Y-K Camping	6	1	130	4-H member (120) volunteer (10)	89,900
4. Y-K Volunteer Leaders Train- ing	5	1	100	volunteer (100)	82,000
5. Y-K Camping in Kanchanaburi Province	5	1	105	4-H member (100) volunteer (5)	44,200
6. Y-K Double Rice Crop Farm- ing Training	6	1	60	4-H member	73,500
7. Y-K Crop Rotation Training	6	1	60	4-H member	73,500
8. Y-K Irrigation water manage- ment Training	6	1	60	4-H member	73,500
9. Y-K Plant Protection Train- ing	6	1	60	4-H member	73,500
10. Y-K Soil Fertility Training	6	1	60	4-H member	73,500
11. Y-K Marketing Training	6	1	60	4-H member	73,500

Project	Duration per session (day)	Number of session per year	Number of participants	Target	Royal Thai Government Regular Budget (฿)
12. National Farmer Association Management Training	7	1	130	farmer	204,420
13. Regional Farmer Association Committees Training	7	1	76	farmer	126,580
14. Provincial Farmer Association Chairman and Outstanding Members Seminar	7	1	116	farmer	185,000
15. Business Administration Training for Western Regional Farmer Association Committees	7	1	80	farmer	64,050
16. Accounting and Agricultural Credit Refresher Course for Western Regional Farmer Association Representative Members	7	1	80	farmer	64,050
17. Western Regional Farmer Association Committee Meeting	3	5	9	farmer	13,050
18. Provincial Farmer Wife Congress	5/1	8	100	Farmer wife	466,400
19. Regional Farmer Wife Congress	5/1	1	200	Farmer wife	70,300
20. National Farmer Wife Congress	5/1	1	200	Farmer wife	180,000
21. Food Practice Training	10/1	8	25	Farmer wife	200,000
22. Agricultural Handicraft Practice Training	10/1	8	25	Farmer wife	200,000
TOTAL					2,690,310

JICA